

り び ら

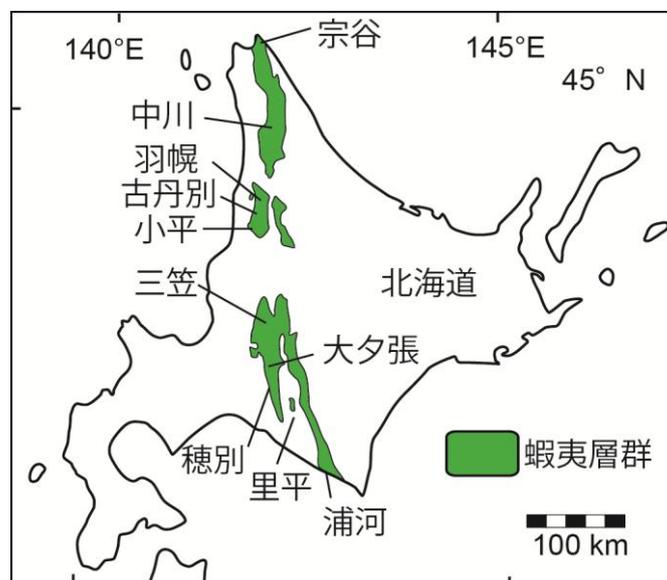
## 北海道の新しい化石産地（里平地域）から 3 新種を含むアンモナイト 37 種を発見 新種を含む多くの化石がむかわ町穂別博物館に寄贈

### ポイント

- ・伊豆倉正隆氏（札幌市）が中心となった 2009 年からの調査で、これまでに知られていなかったアンモナイト産地：北海道里平地域を発見した。
- ・その後、重田康成博士（国立科学博物館）を中心とした研究チームによって研究が進められ、2019 年 2 月に 3 新種を含むアンモナイト 37 種とイノセラムス科二枚貝 4 種が報告された。
- ・報告された資料は、国立科学博物館と穂別博物館に寄贈・收藏された。穂別博物館には伊豆倉正隆氏・佐々木登氏（札幌市）により、3 新種アンモナイトを含む 34 種 141 点のアンモナイトが寄贈された。

### 概要

北海道中軸部にはアンモナイトの世界的産地である蝦夷層群が分布し、日本の古生物学黎明期である 1880 年代から研究が進められ、その主要なアンモナイト産地（宗谷、中川、小平、三笠、大夕張、穂別、浦河など）は 1904 年には知られていました。その後の研究では、これらの地域をより詳細に調査することで白亜紀中ごろから後期のアンモナイト相が明らかにされてきました。現在までに北海道産のアンモナイトは 300 種近くが知られています。



蝦夷層群の分布図

近年発見されたアンモナイト新産地は、2005 年に発見され、2008 年に論文として発表された日高町沙流川流域の白亜紀カンパニアン期最後期の地層ぐらいで、新しい化石産地が見つかることはかなり稀となってきました。

2009 年に札幌市在住の伊豆倉正隆氏と佐々木登氏が主要な化石産地としては知られて

いなかったものの、アンモナイトの産出がかすかに噂されていた里平地域（日高町と新冠町の境）から、未記載種（当時）と思われるディディモセラス（2016年に浦河地域産の資料を基に新種とされた種：ディディモセラス・ヒダケンゼ）を発見し、里平産アンモナイト研究の潜在的な重要性に気がつきました。その後、伊豆倉氏が化石採集調査を続け、国立科学博物館の重田康成博士を中心とした研究チームが調査・研究を進めていきました。それら結果を研究成果としてまとめた論文（モノグラフ）が国立科学博物館から2019年2月に発行されました。



研究のきっかけになったアンモナイト化石：  
ディディモセラス・ヒダケンゼ (*Didymoceras hidakense*)  
佐々木登氏寄贈

今回発見された里平地域の蝦夷層群からは3新種アンモナイト（ネオフィロセラス・ノドサム、メヌイテス・アーマータス、パラゾレノセラス・リビラエンゼ）を含む白亜紀カンパニアン期アンモナイト37種とイノセラムス科二枚貝4種を発見・報告しました。



新種ネオフィロセラス・ノドサム *Neophylloceras nodosum* sp. nov.  
螺環側面中央に一系列のイボが発達することにちなみ、イボ（nodus：ラテン語）を語源とした新種名に命名。  
伊豆倉正隆氏寄贈



**新種メヌイテス・アーマータス** *Menuites armatus* sp. nov.

多くの棘によって武装した (armatus:ラテン語) ことを語源とした新種名に命名.

伊豆倉正隆氏寄贈

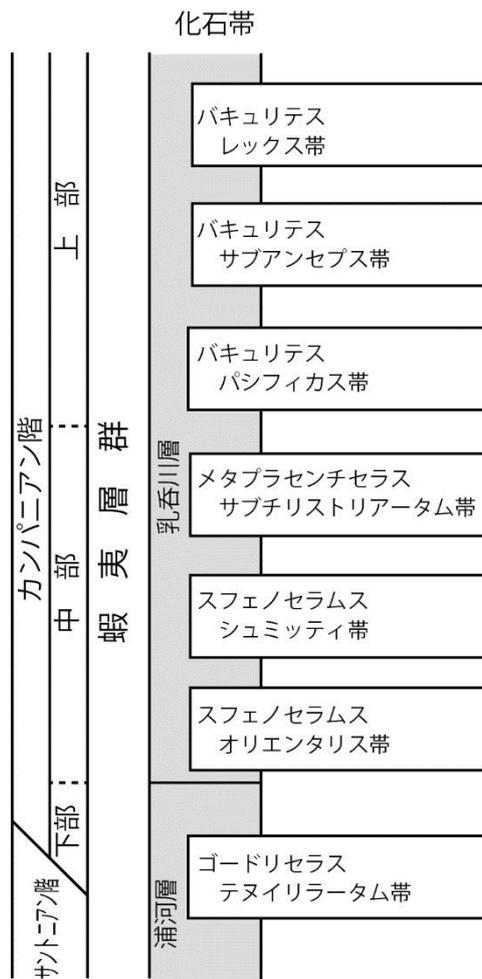


**新種パラゾレノセラス・リビラエンゼ** *Parasolenoceras ribiraense* sp. nov.

産出地である地名の<sup>りびら</sup>里平を語源とした新種名に命名した (-ense は地名の接尾語).

伊豆倉正隆氏寄贈

里平地域では7つの白亜紀カンパニアン期の化石帯 (ゴードリセラス・テヌイリラータム帯、スフェノセラムス・オリエンタリス帯、スフェノセラムス・シュミッティ帯、メタプラセンチセラス・サブチリストリアータム帯、バキュリテス・パシフィカス帯、バキュリテス・サブアンセプス帯、バキュリテス・レックス帯) が認識されました。2016年に発表した浦河地域における研究では、カンパニアン階中部から上部のスフェノセラムス・オリエンタリス帯からバキュリテス・サブアンセプス帯の化石帯の5つの化石帯の順序が認識されました。今回の研究ではこれらに加えて、バキュリテス・サブアンセプス帯の直上のカンパニアン階上部にバキュリテス・レックス帯が新たに認識されました。



里平地域で確認された化石帯



カンパニアン階上部のバキュリテス・レックス帯の化石；  
バキュリテス・レックス *Baculites rex*  
伊豆倉正隆氏寄贈

加えて、今回発見されたパキディスカス・エクセルサス *Pachydiscus excelsus* は北西太平洋地域のパキディスカス属の中で最古のものであり、その進化や系統について考える上で重要であることが明らかになりました。



北西太平洋地域最古のパキディスカス属；  
パキディスカス・エクセルサス *Pachydiscus excelsus*  
佐々木登氏寄贈

研究に用いられた資料は、国立科学博物館とむかわ町穂別博物館に収蔵され、穂別博物館には全体の約 1/3 のアンモナイトが寄贈・収蔵されました。穂別博物館には 3 新種アンモナイトを含む 34 種 141 点のアンモナイトが伊豆倉正隆氏、佐々木登氏（札幌市）から寄贈されました。

#### 出版された論文

著者：重田康成・伊豆倉正隆・西村智弘

論文タイトル：Campanian (Late Cretaceous) ammonoids and inoceramids from the Ribira River area, Hokkaido, northern Japan

出版論文：National Museum of Nature and Science Monographs (国立科学博物館モノグラフ), No. 50, 1-139.

出版日：2019 年 2 月 1 日

#### お問い合わせ先

むかわ町穂別博物館（〒054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6）

学芸員 西村 智弘（にしむら ともひろ）

TEL 0145-45-3141 FAX 0145-45-3141 メール [tnishimura@town.mukawa.lg.jp](mailto:tnishimura@town.mukawa.lg.jp)

URL <http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>